

256 列MDCT により肥大型閉塞性心筋症(HOCM)の詳細診断を行った1例

福田 康了¹¹澄心会 岐阜ハートセンター

本症例は60歳代女性で、無症候性ながら肥大型心筋症(HCM)として他院で加療中であった。2023年心エコーにて左室流出路圧較差39mmHgと報告されていたが、種々の薬物治療にもかかわらず、2025年には67mmHgに増加。経皮的中隔心筋焼灼術(PTSMA)の適応評価のため当院を紹介された。当院施行の心エコーではIVSTd 17.8mm、PWThd 10.9mm、SAM陽性、圧較差は89mmHgと著増。256列MDCT(SnapShot Freeze 2)による精査により、心筋肥厚(IVSTd 21.6mm)、冠動脈LAD #6の中等度狭窄、SAMの形態的起因(弛緩腱索と僧帽弁前尖の複合体)が明確に描出された。本症例では、全心周期にわたるvolume dataの取得により、任意断面のシネ表示や4D再構成が可能であることが確認され、PTSMA施行時のCT所見の重要性を示唆する症例である。

